# スーパーグローバル大学創成支援（タイプB）豊橋技術科学大学 取組概要

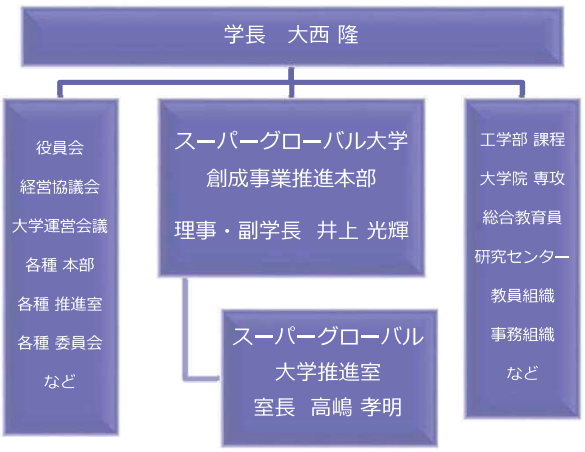
## 1. 構想の概要

**【構想の名称】**
『グローバル技術科学アーキテクト』養成キャンパスの創成

**【SGUの取組を通じて目指す大学の将来像】**
経済社会のグローバル化が進む中、日本が今後も世界で発展していくためには、大学における国際競争力の向上と、多様な場でグローバルに活躍できる人材の育成が不可欠です。豊橋技術科学大学は、高等専門学校生を中心とした日本の若者と世界の若者を受け入れ、世界で活躍できる上級技術者を養成する技術科学大学として、言語・文化にとらわれない工学教育を全学に展開し、国際通用力の高いキャンパスを目指します。

**【構想の概要】**
これからの社会が必要とする人材像を「グローバル技術科学アーキテクト」と名付け、国内外の学生・教員・職員すべてが言葉や文化の壁を越えて一つになって切磋琢磨する環境、「多文化共生・グローバルキャンパス」の実現を通じて、国際性に富んだ技術科学の創造的なリーダーの育成を目指します。その実現に向けて、「グローバル技術科学アーキテクト養成コース」、「グローバル宿舎」、「重層的なグローバル人材循環」の3つの施策を中心に実施します。これらを核としてキャンパス全域のグローバル化を断行し、真の国際通用性と競争力を備え、我が国産業のグローバル競争力と持続的経済成長を根底から支える大学への変革を推進します。

**「グローバル技術科学アーキテクト」** グローバルな課題を発見し、分析・解決するための俯瞰的な構想・設計力を有し、具体的なものづくりを主導できる高い技術力と科学的要素に裏付けられた上級技術者




実施体制

**【10年間の計画概要】**

### ① 『グローバル科学技術アーキテクト』養成コース

グローバル社会が必要とする技術科学人材の育成を目的として、平成26-27年度にコース内容及び教育・入試制度設計を行い、平成27年度には高等専門学校等にコース内容と募集概要を通知、平成28年度から入試を実施する。日英バイリンガル講義、学部・博士前期課程6年の一貫教育とし、全学部課程・大学院専攻にコースを設置する。平成29年度より3年次編入生の受入れを開始、平成30年度より1年次の受入れを開始する。

また、同コースの設置と学年進行にともない、日英バイリンガル講義を全学に展開し、学部・大学院ほぼすべての講義をバイリンガル対応に転換する。この際、通常コース講義の専門力と語学力のバランスをとりつつ、非母国語言語への学習支援などを進め、全学的な言語にとらわれないグローバル技術科学工学教育を推進する。

### ② グローバル学生宿舎

『グローバル科学技術アーキテクト』養成コースの学生は原則全寮制とし、その入居するシェアハウス型グローバル学生宿舎を新設する。平成26-27年年度に構想の具体化と建設準備を行い、平成28年度より順次宿舎棟を建設する。多文化・多言語・多様な価値観が共存する教育型寮として、世界に通用する人間力を涵養する場とするべく、建築準備と並行して宿舎の生活・教育運営体制と各種プログラムの検討を行い、平成29年度より学生受入れと運用を開始する。

グローバル宿舎に入居する日本人と留学生が一体となり、そこを核として既設の宿舎を含むキャンパス全域を巻き込んだ活動を展開することで、多文化共生・グローバル化を深化・展開させる。

### ③ 重層的なグローバル人材循環

キャンパス全域の人的資源の多国籍化と国際通用力の強化を推進するために、学生・教員・職員のあらゆる階層の人的資源のグローバル循環を計画的に継続実施して定常化させる。平成29年度からの人事交流プログラムの本格実施を目指して、平成27-28年度に海外重点交流協定校との協議を進める。その後、他の海外交流協定校へと展開する。先導する施策として、教員・職員を対象としたニューヨーク市立大学クィーンズ校における英語研修と研究・教務研修プログラムを平成26年度に制度化し、平成27年度より開始する。

**【特徴的な取組（国際化、ガバナンス改革、教育改革等）】**

●高等専門学校からの学生を主体とした、学部・博士前期課程一貫教育によるグローバル人材育成

本学は学生の80%が高等専門学校から学部3年次への編入学であり、博士前期（修士）課程までの一貫教育で、ものつくりに極めて強い、実践的な技術者を育成してきた。この教育を、グローバルな視点から見直し、「グローバル技術科学アーキテクト」というコンセプトのもとに発展させ、世界で広く活躍できる人材育成を目指す。

さらに、高等専門学校との教員交換人事、高専教員の英語による教授法習得のグローバルFD研修、高専学生の本学での体験プログラムなどを継続的に発展させ、本学の教育研究グローバルネットワークとの連携を推進して、全国高専のグローバル化を先導する。

●日本語・英語バイリンガル講義

日本人は英語を、外国人留学生は日本語を交えて実践的工学・技術・科学を学び、それらを駆使して新しい技術の開発・研究ができる能力を身につけられるように、日本語・英語バイリンガルによる講義を行う。これは、グローバル技術科学アーキテクト養成コース内にとどまらず、学部・大学院ほぼすべての全学の講義に展開する。

グローバル技術科学アーキテクト養成コースには学部1年からを含めて、積極的に外国人留学生を受け入れるとともに、バイリンガル講義の全学展開および海外交流協定校とのジョイントディグリー/ダブルディグリー制度の拡大により、海外との学生の流動性を高め、学生の国際化・多様化を促進する。

●マレーシア海外教育拠点の戦略的活用

マレーシア・ペナン島の海外教育拠点（ペナン校）を、海外実務訓練・研修の実施、ASEAN諸国の優秀な学生の獲得と渡日前入試、現地大学や地域との連携など、グローバル技術科学アーキテクトの養成に戦略的に活用する。それらを通じて、経済成長著しいASEAN諸国の技術産業の発展に資する人材育成を推進する。それらをさらに欧米諸国にも拡大し、本コースの質的・量的な拡大を目指す。

●食住学共存、混住・教育型グローバル学生宿舎による、多文化共生・グローバルキャンパスの創生

グローバル技術科学アーキテクト養成コース生は、全寮制を原則とし、そのためのシェアハウス型学生宿舎を新設し、多国籍で多様な価値観を有する学生・教職員がともに生活する環境を作る。既設の学生宿舎と合わせて、全学生の40%以上が学内の宿舎に入居、その25%近くが留学生となり、キャンパス全域のグローバル化の核となって、多文化共生・グローバルキャンパスの創成を推進する。

# 2. 取組内容の進捗状況（平成26年度）

## ■ 共通の成果指標と達成目標

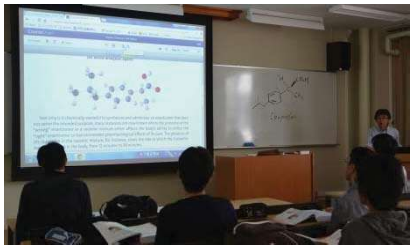
### 国際化関連

**○ 「グローバル技術科学アーキテクト養成コース」の設置準備に着手**

本事業の基幹となるコース設置（平成29年度より3年次受入れ、平成30年度より1年次受入開始）に向け、入試制度と教育制度の概要策定に着手した。コース設置で増員を図る従来と異なる人材像の留学生獲得に向け、連携の強いASEANを中心とする主要協定校・関連校を訪問して構想を説明し、支援協力体制の構築、優秀な留学生の獲得に向けた施策を開始した。さらに、外国人留学生同窓生を積極活用するため、海外同窓会を開催し組織化を開始した。

**○ 日英バイリンガル講義と語学力強化カリキュラムの策定**

全学的に展開する英日バイリンガル講義のフレームワークを、ワーキンググループにて協議を重ねて策定し、本年度より一部試行を開始した。また、日本人の英語力、留学生の日本語力を養成する語学カリキュラム改革の方針策定を終え、具体的な実施に向けた詳細設計を本年度より開始した。



〈バイリンガル講義の試行風景 〉

**○ グローバル学生宿舎の建設準備**

日本人と外国人の混住型シェアハウス型学生宿舎建設のための、資金調達・回収方法、基本要件・管理運営方針の検討を進めた。アドバイザリー業務の委託先を決定し、本年度より業者の選定・具体的設計を開始し、来年度着工に向けて準備を進める。

**○ グローバルコミュニケーション能力の向上支援体制**

学生・教員・職員すべてを対象としたグローバルコミュニケーション能力向上のために、英語 eラーニング教材を強化。英語学習アドバーザを常駐させ、個別相談、セミナー・講座の常時開設などを開始し、学習支援体制を構築した 。また、日英バイリンガル講義を推進するための、教員向け「英語での教授法」の特別セミナーも開催した。

### ガバナンス改革関連

**○ 事業推進本部・推進室の設置**

学長直轄組織「スーパーグローバル大学創成事業推進本部」を設置、構想責任者の理事・副学長を本部長に任命、同本部下に「SGU推進室」を設置。学長リーダーシップの下で全学的な推進体制を構築し、活動を開始した。

**○ 大学憲章・大西プラン・国際戦略の策定**

真の国際通用性を備えグローバル競争力を持つ技術科学大学への変革の道標となる大学憲章、世界に通ずる技術科学を目指す具体的な5つの挑戦（大西プラン）、多文化共生・グローバルキャンパスの実現に向けた国際戦略を新たに策定し、全学に宣言した。

〈左から 高嶋室長、大西学長、井上本部長〉

**○ 国際通用生を見据えた研修制度**

教員・職員の海外交流協定校との人事交流の本格実施に先立ち、ニューヨーク市立大学QC校への1～1.5ヶ月の語学研修と研究・事務職務交流 FD/SDプログラムを新設し、平成27年度より事務職員1名と教員4名の派遣を開始した。

### 教育改革関連

**○ 「グローバル技術科学アーキテクト養成コース」 入試制度と教育制度の改革案策定**

コース新設に伴う全学の募集定員・出願資格・入試方法の変更、外部試験の活用などの大幅な改革案を策定した。平成29年度からの3年次学生受入開始に向け、入試制度変更の事前公表を行い、主たる対象の全高等専門学校への通知を開始した。養成コースにから順次全学に展開する構想であった日英バイリンガル講義は、最初から全学展開を同時進行する方針とし、教育制度の概略策定を経て、今年度より教務設計を具体的に開始した。

**○ 教育プログラムの国際通用性と学生の国際流動性の向上**

シュトゥットガルト大学（ドイツ）とのダブルデグリープログラム対象学科拡大の具体的な打ち合わせを開始した。本学のマレーシア教育拠点を連携拠点として、マレーシア科学大学（USM）、その他の地元高等教育機関との共同教育プログラムの創設等の具体的な協議を進めている。

〈USM学長・学部長との教育連携の協議〉

## ■ 大学独自の成果指標と達成目標

本構想では，以下の四項目を大学独自の成果指標として設定している。
1）学生宿舎入居率（キャンパスグローバル化指標）
2）海外インターンシップ履修率
3）事務職員の海外研修経験率
4）研究論文等の発表における国際共著率
これらの指標値向上のため，以下の取り組みを行っている。

### ○ グローバル学生宿舎の建設に着手

多国籍の学生が共同生活を営むグローバル寄宿舎の新設に着手した。また、学生・教職員の優秀なアイディアを建設案に盛り込むために、グローバル宿舎のデザインコンペを実施した。これにより、全学的な参加意識を高め、キャンパスグローバル化構想を全学に浸透させることができた。

〈グローバル学生宿舎 デザインコンペ 〉

### ○ 課題解決型・長期海外実務訓練の制度設計完了

グローバル技術科学アーキテクト養成コース履修生は、日本人は海外、外国人は日本で、非母国語で約6ヶ月の企業等での実務訓練を必修とする計画である。その実施に向け、学部4年次後期から修士1年次前期の約6ヶ月に渡る，課題解決型長期実務訓練制度の詳細プログラムを作成した。また，実務訓練期間中に開講される授業単位を問題なく取得できるようにするため、学部4年次での大学院科目を学部4年次に先取りできる制度などを制定した。

### ○ ニューヨーク市立大学クイーンズ校での教員・職員研修を開始

教員・事務組織のグローバル化を図るべく，交流協定校であるニューヨーク市立大学クイーンズ校（QC）における教職員の研修制度を新設した。QCに1−1.5ヶ月集中的に滞在して，英語研修および研究・業務研修を行う。教員はQCで英語研修を受講して英語による教授法を習得すると共に，関連分野の研究室との交流を通じて共同研究等の機会を作り、グローバルを舞台とした教育研究活動を推進する。事務職員は、英語力を高めるとともに、QCの事務部門での業務研修を通して、職務の国際通用性を高め、国際的な実務能力を高める。平成27年度より、事務職員1名と教員4名の派遣を開始、今後人数規模を増やしての実施を計画している。

〈ニューヨーク市立大QC校での研修の様子〉

## ■ 大学の特性を踏まえた特徴ある取組

### ○ グローバル学生宿舎を中核とした多文化共生キャンパスの創成

本学は，全国の高等専門学校から学生が入学するため、学生宿舎で生活する学生が多い。この特徴を生かして，グローバル学生宿舎の新設およびこれを中核としたグローバルキャンパスの創成を設計している。進捗状況としては，上記の建設設計案の作成に加えて，教育型寮として機能させるべく、運営体制・プログラム設計・サポート体制などを検討するWGをSGU推進室で立ち上げている。

### ○ ASEAN諸国との連携を強化

本学では留学生の半数以上がマレーシア，インドネシア，ベトナムから渡日している。何れも経済成長著しいASEAN諸国である。本構想では，これまでの繋がりを生かして優秀な留学生の増加を目指す。

平成26年度には，9カ国（15大学）において，留学生獲得のために本学紹介およびSGU事業の説明を行った。また，マレーシアの本学海外教育拠点にインターネット面接システムを設置して本学および全国高専高速ネットワークと接続し、留学希望者の面接や関係大学との会議、講義配信など行えるシステムを整備した

また、例えばベトナムでは，ホーチミン市工科大学およびホーチミン市天然資源環境大学との連携を強化し，H27年度に本学からのインターンシップ学生の派遣を制度化、また在ベトナム企業等5社に海外実務訓練生の受け入れを打診し合意を得るなど、グローバル技術科学アーキテクト養成コースに向けた準備を開始している。

〈マレーシア Chung Ling 高校での説明会〉

## ■ 平成26年度取り組みの総括

本事業では以下の3つの取り組みを柱として，国際通用性が高い「多文化共生・グローバルキャンパス」の実現を目指す。

1．「グローバル技術科学アーキテクト」養成コースの新設
2．多様な価値観の学生・教職員が共生するグローバル宿舎の新設
3．重層的な人材循環の強化　～学生・教員・事務職員すべてのグローバル循環を加速・定常化～

何れの取り組みも順調に制度設計が進んでいる。さらに本構想における主要事業であるバイリンガル講義および事務職員・教員海外派遣制度については，既に試行を開始していることから，進捗状況は良好と言える。

# 3. 取組内容の進捗状況（平成27年度）

## ■ 共通の成果指標と達成目標

### 国際化関連

**○ 「グローバル技術科学アーキテクト養成コース（GAC）」の新設準備**

平成29年度より3年次編入、30年度より1年次入学開始に向け、入試制度と教育制度の新規作成をほぼ完了した。コース生となる日本人と留学生獲得のために、説明資料・プレゼンテーション等を作成し、全国の高専とASEAN中心の主要協定校・関連校への配布と重点校を訪問した説明会を実施し、コースの周知と優秀な学生の獲得活動を実施した。GACの3年次入学の出願受付を平成28年4月末より開始し、入試を計画通り実施した。

**○ 日英バイリンガル講義と語学力強化カリキュラムの策定**

教務委員会にてバイリンガル講義の全学実施方針を決定、実施計画の策定と各系（学科）での実施準備を進めた。昨年度の試行を拡大して30科目以上で実施、平成28年度は原則として全教員が1科目以上のバイリンガル講義を行い、153科目、13%がバイリンガルとなる予定。日本人の英語力、留学生の日本語力を養成する語学カリキュラムの改定作業を終え、平成29年度からの実施に向けての準備を開始した。

〈バイリンガル講義の試行風景 〉

**○ シェアハウス型グローバル学生宿舎の建設準備**

学内コンペ最優秀作品のコンセプトを含む要求仕様にもとづき、公募型プロポーザルを実施して業者を決定し、契約を締結した。平成28年度3月の第一期60室完成に向けて、設計・施工を開始する。また、グローバル学生宿舎を活用した人材育成を活性化するための教育プログラムや交流プログラムの策定を開始した。

**○ グローバルコミュニケーション能力の向上支援体制**

英語学習アドバイザーを週5日の常駐体制とし、学生・教員・職員全員を対象とした個別相談とセミナーや講座等を開設し、支援体制を強化した。事務職員の英語向上のため、eラーニング用タブレットを貸与して自主学習体制を整備し、TOEIC受験等で進捗の管理を開始した。

### ガバナンス改革関連

**○ SGU推進室の設置**

SGU推進室を設置、各系(学科)の中堅教員を室員として、プロジェクト全体の管理と学内のコミュニケーション強化を中心に活動を開始した。SGUの各取組は担当すべき委員会やセンターの所轄とし、新規案件・横断的に実施すべき内容を室の主責務として推進している。今後のSGU事業の進捗と補助金終了後を見据えて、学内の国際関連組織・センターの再編に向けた検討も開始した。

〈大西プラン〉

**○ 大学憲章・大西プラン・国際戦略の策定**

平成27年度に策定した大学憲章・大西プラン・国際戦略とSGU構想にもとづき、第三期中期計画を作成し実施を開始した。SGUの成果指標と達成目標は中期計画に落とし込むことで、責任の明確化と実施状況の把握を図っている。

**○ 国際通用性を見据えた研修制度**

教職員をニューヨーク市立大学クイーンズ校に4-6週間派遣して、短期集中英語強化と研究・事務職務交流を行う、FD/SDプログラムを開始した。平成27年度は教員4名と職員1名を派遣、平成28年度は規模を拡大して教員6名と職員2名を派遣する。これらを今後継続するとともに、海外交流協定校等との中長期の人事交流の実施に向けた準備を開始する。

### 教育改革関連

**○ 入試制度と教育制度の改革**

コース新設に伴う全学の募集定員・出願資格・入試方法の変更・外部試験の活用など、大幅な改革実施案を作成した。平成28年度のGAC 3年次入試開始に向け、入試制度変更の事前公表を行った。日英バイリンガル講義は、構想調書から前倒して、当初から全学展開を進めることを関連委員会にて決定した。

**○ 教育プログラムの国際通用性と学生の国際流動性の向上**

GPA・ナンバリングに対応する教務システムの改修を完了し、教務委員会で策定した計画にもとづき、順次導入を開始した。海外協定校との教育プログラムとして、東北大学（中国）、モンゴル科技大とのツイニング・プログラムを締結した。マレーシアの科学大学（USM）やDISTED Collegeほか、各国の大学との共同教育プログラムの創設に向けて具体的な協議を引き続き進めている。

〈 DISTED Collegeの表敬訪問〉

## ■ 大学独自の成果指標と達成目標

本構想では，以下の四項目を大学独自の成果指標として設定している。
1）学生宿舎入居率（キャンパスグローバル化指標）
2）海外インターンシップ履修率
3）事務職員の海外研修経験率
4）研究論文等の発表における国際共著率
これらの指標値向上のため，以下の取り組みを行っている。

### ○ グローバル学生宿舎の新設

多国籍の学生が混住するシェアハウス型グローバル学生宿舎の基本設計と業者選定を終了し、平成28年度より建築に着手する。学内の既存の学生宿舎（600人）エリアの一角に、1棟30人収容の6棟(合計180人)と、共有棟1棟を建設する。1ユニットは5人の個室と、共有のリビング・ダイニング・キッチン・シャワールームからなり、日本人と外国人が半々となる予定。平成29年度4月のGAC開設に合わせて入居を開始し、学年進行を経て平成30年度に完成する。

〈グローバル学生宿舎イメージ図 〉

### ○ グローバル実務訓練の実施拡大

GAC日本人は海外で、外国人は日本で6ヶ月の実務訓練を必須とする構想にもとづき、関連委員会にて実施計画を協議した。実施可能性に配慮し、学部最後2ヶ月(必須)の実務訓練と、大学院最初の4ヶ月まで延長する課題解決型長期インターンシップ(選択)の既存フレームワーク内で実施することを決定。現在実施しているペナン教育拠点周辺の企業と、教員個人による海外大学・研究機関だけでは派遣先が今後不足するので、米国シリコンバレーの企業開拓などを開始した。平成28年度からは、実務訓練委員会の下に海外実務訓練の責務を集約し、全学的な実施拡大を開始した。

### ○ 海外交流協定校を中心とした職員の海外研修を推進

事務職員のグローバル化を図るべく、ニューヨーク市立大学クイーンズ校（QC）での短期集中英語強化研修と大学事務組織との交流や、マレーシア・ペナン教育拠点の運営と各種イベントへの職員派遣、連携大学の訪問、海外での大学説明会・留学生フェアー実施メンバーに職員を含めるなどを計画的に実施し、海外での実務経験者層を増やしている。

〈ニューヨーク市立大QC校での研修の様子〉

### ○ 技術科学イノベーション研究機構の設置

研究推進アドミニストレーションセンター（RAC）による、教員のグローバルな研究実績を増加させる支援に加え、既存の研究所とリサーチセンターの活動に横串を通し、更に戦略的に研究を推進する組織に向けた再編を進め、平成28年4月より「技術科学イノベーション研究機構」を設置した。

## ■ 大学の特性を踏まえた特徴ある取組

### ○ グローバル学生宿舎を中核とした多文化共生キャンパスの創成

新設するシェアハウス型グローバル学生宿舎では、日本人と留学生が一緒に生活し、国内にいながら国際生活を体験できる環境を作る。その運営・教育プログラム・交流プログラム等は、既存の学生宿舎から地域にまでひろげ、大西プランで掲げる「多文化共生・グローバルキャンパス」実現のコアとすべく、実施体制とプログラム作成の協議を、SGU推進室と関連委員会等で開始した。

### ○ ASEAN諸国との連携を強化

本学の外国人留学生の半数以上が、マレーシア・インドネシア・ベトナムなどの経済成長著しいASEAN諸国からである。帰国した留学生の海外同窓会組織を含め、これらの国の繋がりを活かして優秀な外国人留学生の増加を目指している。平成27年度には，この地域12カ国の大学・高校等において、大学紹介とグローバル化の説明、GACと新入試の説明を行った。また、さくらサイエンスプログラムを活用し、3カ国4高校から10名の高校生と4名の教員を本学に招待、平成28年度は、それを5カ国9高校から25名の高校生と9名の教員に拡大して継続実施をする。

〈さくらサイエンスプログラムの参加者〉

## ■ 平成27年度取り組みの総括

以下の3つを柱として、真の国際通用性を備えた大学への変革を推進している。
1. 「グローバル技術科学アーキテクト」養成コースの新設
2. 多様な価値観の学生・教職員が共生するグローバル宿舎の新設
3. 重層的な人材循環の強化 ～学生・教員・事務職員すべてのグローバル循環を加速・定常化～

コースの新設と学生の募集・入試の実施、宿舎の建設着工にこぎつけたことから、当初の計画は順調に始動した。バイリンガル講義は最初から全学展開する方針に変更し、構想調書の計画を前倒して実施している。今後は、GAC学生の新しい教育と、宿舎プログラムの立案と実施などが重点課題となる。併せて、全ての成果指標と達成目標の状況を全体的に確認し、効率的な取り組みの実施と運営管理、大学の真の変革に向けた挑戦を継続することが重要と認識している。

# 4. 取組内容の進捗状況（平成28年度）

## ■ 共通の成果指標と達成目標

### 国際化関連

**○ 「グローバル技術科学アーキテクト養成コース（GAC）」の3年次募集及び入試実施**

本事業の基幹となるGACの最初の3年次学生受入れに向け、5～6月に入試を実施した結果、35名（うち留学生9名）の入学者を得た。また、在学の学部2年からGACへの転コース制度を整備して募集した結果、6名（うち留学生1名）が合格し、合計41名（うち留学生10名）にて平成29年4月よりコースを開始することとなった。平成29年度からは外国人留学生を主体とした1年次のGAC入試も開始するため、さらなるコースの周知と優秀な学生獲得に向け、ASEANの主要国と重点高校ならびに全国高専に向けて、ポスターや説明資料の作成し配布および説明会などを継続実施した。

**○ 日英バイリンガル講義と語学力強化カリキュラムの策定**

バイリンガル講義の全学展開方針に基づき、平成28年度は原則として全教員が1科目以上をバイリンガル講義とした結果、学部では139科目（学部の語学を除く全科目の25%）がバイリンガル化された。また、GAC学生の受入れ開始に向け、語学力とグローバル資質を伸ばすための教務制度の制定と、カリキュラム及び時間割の編成を行った。

〈バイリンガル講義の風景 〉

**○ シェアハウス型グローバル学生宿舎の第一期工事**

10月よりグローバル学生宿舎（2棟）と集会棟の建設に着工し、平成29年3月に完成した。学内公募と協議を経て、宿舎の名称を「TUTグローバルハウス」に決定した。ハウスマスターを公募して採用し、学生入居に向けて受入体制の整備を図ると共に、GAC学生の正課外教育の場としての生活学習プログラムについて、SGU推進室および関連委員会等で協議を重ね、平成29年4 月からの入居と宿舎運営体制を整備した。

**○ グローバルコミュニケーション能力の向上支援体制**

英語学習アドバイザーの稼働率が高く講座も好評のため、週5日の常駐体制を継続実施した。留学生への日本語学習アドバイザーも試行導入して、学生・教職員への語学学習支援体制を強化した。将来の中長期海外派遣候補となる事務職員を対象に、新たにオンライン英会話研修を導入した。附属図書館の改修に併せて、1階の一部をグローバルレクチャーエリアに改修し、グローバル学習環境の整備を行った。

### ガバナンス改革関連

**○ 外部評価委員会の開催**

平成29年3月に外部評価委員会を開催し、平成26年度からの進捗状況等について説明し、バイリンガル講義、留学生の地域交流、各種数値目標の達成状況などについて、本事業を推進していくうえで貴重な助言を得た。

**○ 第3期中期計画の実施**

大学憲章・大西プラン（2016）・国際戦略とSGU構想にもとづき作成した、第3期中期計画を開始した。SGUの成果指標と達成目標は中期計画に入れることで、責任の明確化と実施状況の把握を図っている。

〈大西プラン（2016）〉

**○ テニュアトラック制度の実施**

本学独自のテニュアトラック制度を制定してテニュア教員を増やす取組みを継続実施し、平成28年度には4名のテニュア教員を採用した。

**○ 国際通用性を見据えた研修制度**

教職員のニューヨーク市立大学クイーンズ校で、4-6週間の短期集中英語強化研修と研究・事務職務交流を行う、FD/SDをSGU事業初年度から行っており、平成28年度は教員6名と職員2名を派遣、29年度も同数を派遣する。これらを今後継続するとともに、中長期の海外協定校等との人事交流の実現に向けた準備を開始する。

### 教育改革関連

**○ 入試制度と教育制度の改革**

GAC入試の導入に伴い入試制度の大幅な見直しを行い、実施した。関連委員会等で結果を評価して改善を重ねて継続する。構想調書から前倒しして全学展開するバイリンガル講義に関し、講義手法並びに学生が対応できるための語学力養成カリキュラムなどの具体的な検討を行い、入学前教育を含むカリキュラム、時間割編成を作成した。

**○ 学生の国際流動性の向上**

学生の国際流動性を高め、正規生の外国人留学生数を継続的に高めるには、海外協定校との連携教育プログラムが有効と認識した。 既設の学部ツイニング5件、修士ツイニング3件、修士ダブルディグリー2件に加え、新規にマレーシア・ペナンのDISTED Collegeとのツイニング・プログラムを締結した。シュトゥッガルト大学（ドイツ）とのダブルディグリーの専攻科拡大、マレーシア科学大学（USM）とのツイニング制定の具体的な協議を開始したほか、各国の大学との共同教育プログラムの創設に向けて具体的な協議を引き続き進めている。

〈 DISTED Collegeとの調印式〉

## ■ 大学独自の成果指標と達成目標

本構想では，以下の四項目を大学独自の成果指標として設定している。
1）学生宿舎入居率（キャンパスグローバル化指標）
2）海外インターンシップ履修率
3）事務職員の海外研修経験率
4）研究論文等の発表における国際共著率
これらの指標値向上のため，以下の取り組みを行っている。

### ○ TUTグローバルハウス（グローバル学生宿舎）の新設

多国籍の学生が混住するシェアハウス型グローバル学生宿舎の第一期工事を完了し、平成29年３月末に2棟（１棟30人収容）及び集会棟完成させた。GACの学年進行に合わせて増築し、平成30年度末までに計６棟(収容180人)とする。1ユニットは5人の個室と、共有のリビング・ダイニング・キッチン・シャワールームからなり、将来は日本人と外国人が半々となる予定。平成29年度4月にGAC学生（41名）と一般学生（19名）が入居を開始した。そのうち留学生は11名、女子学生は5名。

〈TUTグローバルハウス 〉

### ○ グローバル実務訓練の実施拡大

GAC日本人は海外で、GAC留学生は日本で、2～4ヶ月の実務訓練を必須とするため、実務訓練委員会の下に海外実務訓練WGを設置して、派遣先開拓と派遣学生増加への取組みを開始した。現在実施しているマレーシア・ペナンの企業開拓、教員個人による海外大学・研究機関に加えて、米国シリコンバレーの企業開拓や既存の派遣先の受入れ拡大などの活動を開始した。また、海外実務訓練説明会を早期に開催し、希望者と教員への継続的なフォロアップと支援、また奨学金確保を行った結果、平成28年度の派遣学生は前年の32名から58名へと大幅に増加した。活動を引き続き継続強化する。

### ○ 海外交流協定校を中心とした職員の海外研修を推進

事務職員のグローバル化を図るべく、マレーシア・ペナン教育拠点の運営と各種イベントへの職員派遣を中心として、ニューヨーク市立大学クイーンズ校での短期集中英語強化研修と大学事務組織との交流、海外連携大学の訪問や各地での大学説明会・留学生フェアー実施メンバーに職員を含めるなどを計画的に実施し、海外での実務経験者層を増やしている。

〈ASAAN学長会議の参加者と関係者〉

### ○ 技術科学イノベーション研究機構の設置

既存研究所とリサーチセンターを再編して４月より新設した「技術科学イノベーション研究機構」に、カリフォルニア工科大学やMITとの共同ラボを設置した。また、頭脳循環を加速する戦略的研究ネットワーク推進プログラムにより、欧米４大学との連携プロジェクトを開始して、強い国際共同研究ネットワークの構築を進めている

## ■ 大学の特性を踏まえた特徴ある取組

### ○ TUTグローバルハウスを中核とした多文化共生キャンパスの創成

新設したTUTグローバルハウスでは、日本人と留学生が一緒に生活し、国内にいながら国際生活を体験できる環境を作る。その運営・教育プログラム・交流プログラム等は、既存の学生宿舎から地域にまでひろげ、大西プランで掲げる「多文化共生・グローバルキャンパス」実現のコアとなることを目指す。実施体制と宿舎プログラムを、SGU推進室と関連委員会等で協議を重ね、ハウスマスターの協力の下に宿舎運営を行う体制の整備と、TUTグローバルハウスでのGAC学生のグローバル資質を高める宿舎プログラムのフレームワークを作成して、平成29年度からの入居開始に備えた。

### ○ ASEAN諸国との連携を強化

本学の外国人留学生の半数以上は、マレーシア・インドネシア・ベトナムなどの経済成長著しいASEAN諸国からである。これらの国との繋がりを強化する手段の一つとして海外同窓会組織の強化を推進、平成28年度は新たに2ヶ国で組織化を行い、合計8ヶ国に海外支部を設立した。また、この地域11カ国の大学・高校等を訪問して、大学紹介とグローバル化戦略・日本留学の説明を実施。特にGAC1年への優秀な高校生獲得に向けて、さくらサイエンスプログラム等を活用して5カ国の戦略的高校から22名の高校生と9名の教員を本学に招いて大学紹介を実施した。受験者の確実な獲得と拡大に向けて継続実して行く。

〈高校生招聘プログラムの参加者と関係者〉

## ■ 平成28年度取り組みの総括

以下の3つを柱として、真の国際通用性を備えた大学への変革を推進している。
1. 「グローバル技術科学アーキテクト」養成コースの新設
2. 多様な価値観の学生・教職員が共生するグローバル宿舎の新設
3. 重層的な人材循環の強化 ～学生・教員・事務職員すべてのグローバル循環を加速・定常化～

GACの新設と学生の募集・入試の実施、TUTグローバルハウスの建設・宿舎プログラムの決定を行えたことから、当初の計画どおり順調に取組を行っている。バイリンガル講義は最初から全学展開する方針に変更し、構想調書の計画を前倒して実施している。今後は、GAC学生を実際に受け入れて発生する生活問題等が重点課題となる。併せて、全ての成果指標と達成目標の状況を全体的に確認し、効率的な取り組みの実施と運営管理、大学の真の変革に向けた挑戦を継続することが重要と認識している。

# 5. 取組内容の進捗状況（平成29年度）

## ■ 共通の成果指標と達成目標

### 国際化関連

**○ 「グローバル技術科学アーキテクト養成コース（GAC）」の1年次募集及び入試実施**

本事業の基幹となるGACの最初の1年次学生受入れに向け、8～1月に入試を実施した結果、10名（全員留学生）が合格し全員が入学した。また、GAC3次学生は昨年度より16名多い61名（うち留学生16名）が合格したが入学者は45名となり、平成30年4月よりのGAC2期は合計55名（うち留学生23名）で開始した。これらGACの優秀な学生獲得に向け、ASEANの主要国と重点高校、ならびに全国高専に向けて、ポスターや説明資料を作成して配布するとともに説明会などを継続実施するとともに、特にGAC1年次の入試出願者獲得のため、国内の日本語学校から重点校を選定して訪問および説明会を実施するなど、新たな取組を積極的に推進した。

**○ 日英バイリンガル講義と語学力強化カリキュラムの策定**

バイリンガル講義の全学展開方針に基づき、平成28年度から原則として全教員が1科目以上をバイリンガル講義で行った結果、学部では207科目（学部の語学を除く全科目の39%）がバイリンガル化された。また、平成30年度からのGAC1年次受入れに向け、日本語の不慣れな留学生に対応するための日本語授業の増加や前期授業を英語で実施するなどのカリキュラム検討を行った。

〈バイリンガル講義の図 〉

**○ シェアハウス型グローバルハウスに入居開始**

4月よりGAC1期生41名と一般コース生でグローバル活動に積極的な学生19名の合計60名でグローバルハウスでの生活を開始した。GAC学生は、修了要件となるグローバルハウス生活・学習プログラムとして、学内の国際交流イベントへの参加、学長を囲む会やバーベキューなどの開催、地元企業の理解と企業が求めるグローバル人材についての意見交換などを行う交流会の企画実施などを行った。また、新たに2棟を増設して計4棟（120名収容）とした。

**○ グローバルコミュニケーション能力の向上支援体制**

英語学習アドバイザーの稼働率が高く講座も好評のため、週5日の常駐体制を継続実施すると共に、留学生への日本語学習アドバイザーも導入し、学生・教職員への語学学習支援体制を強化した。将来の中長期海外派遣候補となる事務職員を対象に、e-ラーニングによる英語研修及びオンライン英会話研修を引き続き実施した。

### ガバナンス改革関連

**○ 外部評価委員会の開催**

平成30年3月に外部評価委員会を開催し、平成26年度からの進捗状況及び中間評価結果等について説明し、留学生の地域交流、実務訓練派遣、語学教育状況などについて、本事業を推進していくうえで貴重な助言を得た。

〈大西プラン（2017）〉

**○ 第3期中期計画の実施**

大学憲章・大西プラン（2017）・国際戦略とSGU構想にもとづき作成した第3期中期計画に沿って29年度計画を実施した。SGUの成果指標と達成目標は中期計画に入れることで、責任の明確化と実施状況の把握を図っている。

**○ グローバル工学教育推進機構の再編**

本学の国際関連事業の強化・充実を図るために、事業を担うグローバル工学教育推進機構の3センターの組織再編を行い、より横断的に取組を推進出来る体制とした。

**○ 国際通用性を見据えた研修制度**

教職員の4-6週間の短期集中英語強化研修と研究・事務職務交流を行うFD/SDを、ニューヨーク市立大学クイーンズ校でSGU事業初年度から行っている。平成29度は教員6名と職員2名を派遣、30年度も引き続き派遣する。また、国際業務研修として事務職員1名を東フィンランド大学へ約1ヶ月派遣した。

### 教育改革関連

**○ 教育制度の改革**

構想調書から前倒して全学展開しているバイリンガル講義に関し、講義内容や講義方法の改善を図れるよう、学生と教員への授業アンケートによる評価、評価の高い教員のバイリンガル授業の参観（授業研究）などを実施している。

**○ 学生の国際流動性の向上**

学生の国際流動性を高め、正規生の外国人留学生数を継続的に高めるには、海外協定校との連携教育プログラムが有効と認識している。既設の学部ツイニング5件、修士ツイニング5件の更なる拡充を推進するとともに、博士前期課程の教育プログラム及び工学教育における人材育成強化の推進によるプログラムの充実を図るため、新たに東フィンランド大学とダブルディグリープログラムの締結を行った。また、シュトゥッガルト大学（ドイツ）とのダブルディグリーの対象専攻科の拡大を検討、各国の大学との共同教育プログラムの創設に向けて具体的な協議を引き続き進めている。

〈 東フィンランド大学との打合せ〉

## ■ 大学独自の成果指標と達成目標

本構想では，以下の四項目を大学独自の成果指標として設定している。

1）学生宿舎入居率（キャンパスグローバル化指標）
2）海外インターンシップ履修率
3）事務職員の海外研修経験率
4）研究論文等の発表における国際共著率

これらの指標値向上のため，以下の取り組みを行っている。

### ○ TUTグローバルハウス（グローバル学生宿舎）の入居開始

平成29年度4月からGAC1期生（41名）とグローバル活動に積極的な一般学生（19名）の計60名（うち留学生は11名、女子学生は5名）で入居を開始した。
グローバルハウスは1ユニットが5人の個室と共有のリビング・ダイニング・キッチン・シャワールームからなり、日本人学生と留学生が共同生活をして、異文化交流を行いつつ、集団生活上の課題共有・解決、学生イベントの参加・企画等を学生が主体的に行っている。

〈TUTグローバルハウス 〉

### ○ グローバル実務訓練の実施拡大

GAC日本人は海外で、GAC留学生は日本で、学部4年次に2ヶ月の実務訓練を必須としていることから、実務訓練委員会の下に海外実務訓練WGを設置して、海外派遣先開拓と派遣学生増加への取組みを行っている。マレーシア・ペナンの企業開拓、教員個人による海外大学・研究機関に加えて、米国シリコンバレーの企業開拓や既存の派遣先の受入れ拡大などの活動を引き続き行った。また、海外実務訓練説明会を3年次から開催して希望者と教員への早期情報提供と継続的なフォロアップと支援、また奨学金確保を行った結果、平成29年度の海外派遣学生は56名と前年度と同数程度を維持した。

### ○ 海外交流協定校を中心とした職員の海外研修を推進

事務職員のグローバル化を図るべく、ニューヨーク市立大学クイーンズ校での短期集中英語強化研修を行うと共に、新たな取組として、東フィンランド大学へ国際業務研修として約1ヶ月派遣した。また、1週間程度の国際業務研修をマレーシア教育拠点（ペナン校）等で実施し、事務職員の海外での実務経験者層を増やしている。

〈国際業務研修の様子〉

### ○ 研究論文等の発表を増やす取組

研究論文発表数と質の向上のため、プラス1活動、論文発表経費支援、ネイティブによる英語論文校正、国際情報発信プラットフォーム「EurekAlert!」を活用した英文プレスリリース等を実施している。また、「頭脳循環を加速する戦略的研究ネットワーク推進プログラム」による欧米4大学とのネットワーク構築など、国際共同研究を推進する取組を行っている。

## ■ 大学の特性を踏まえた特徴ある取組

### ○ TUTグローバルハウスを中核とした多文化共生キャンパスの創成

GAC生が入居を開始したTUTグローバルハウスでは、日本人と留学生が一緒に生活し、国内にいながら国際生活を体験できる様にシェアハウス型となっている。また、グローバルハウス内に留まらず学内の日本人と留学生の交流推進するために、交流イベントTUT EXPO等に参加した。さらには、地元企業等との交流会として、武蔵精密工業、イノチオホールディングスを招いて、企業が求めるグローバル人材の意見交換などを行った。これらの企画・実施はGAC学生が主体的に行える様に、ハウスマスター・SGU推進室と関連教職員が連携して支援している。

### ○ ASEAN諸国との連携を強化

本学の外国人留学生の半数以上は、マレーシア・インドネシア・ベトナムなどの経済成長著しいASEAN等のアジア諸国からである。これらの地域からの優秀な学生を獲得するため、この地域6カ国の大学・高校等を訪問して、大学紹介とグローバル化戦略・日本留学の説明を実施。特にGAC1年への優秀な高校生獲得に向けて、さくらサイエンスプログラム等を活用して5カ国の戦略的高校から21名の高校生と9名の教員を本学に招いて大学紹介を実施した。

〈高校生招聘プログラムの参加者と関係者〉

## ■ 平成29年度取り組みの総括

以下の3つを柱として、真の国際通用性を備えた大学への変革を推進している。

1. 「グローバル技術科学アーキテクト」養成コース生の受入・TUTグローバルハウスの入居
2. 多様な価値観の学生が共生するTUTグローバルハウスの生活・学習プログラムの実施
3. 重層的な人材循環の強化 ～学生・教員・事務職員すべてのグローバル循環を加速・定常化～

GACの学生受入開始、TUTグローバルハウスの学生入居開始を計画どおりに行えたことから、当初の計画どおり順調に取組を行っている。TUTグローバルハウスの学生が主体となって、日本人と留学生の交流イベント等を実施し、全学的な学生間の交流機会を増やしている。また、事務職員のグローバル化を推進するため、1ヶ月程度の語学研修のみではなく、短期・中長期の国際業務研修を実施し国際経験を積ませるなどして、キャンパス全体のグローバル化を順調に進めている。

# 6. 取組内容の進捗状況（平成30年度）

【豊橋技術科学大学】

## ■ 共通の成果指標と達成目標

### 国際化関連

**○ 「グローバル技術科学アーキテクト養成コース（GAC）」への学生受け入れ**

本事業の基幹となるGACは開始2年目となり、1年次学生の受入れを開始、平成30年度の在籍者は、1年次10名、3年次47名（うち一般コースからの転コース2名）、4年次40名の計97名となった。
GAC生は、語学力強化と世界で通用する人間力育成に重点をおいたカリキュラムを履修し、シェアハウス型宿舎に居住、宿舎プログラムに参加する。コース開始から間もないため、学生の様子を見守りながら随時実施内容の評価と改善案の検討を行い、コースの充実を図っている。

**○ 混住型宿舎での宿舎プログラムの実施**

GACの日本人学生と留学生が混住するシェアハウス型宿舎「TUTグローバルハウス」において、ハウスマスターとレジデントアシスタントが協力して宿舎の運営を行うとともに、新たにアクティビティの企画・実施や居住学生の自主活動を支援する組織「グローバルハウス学生会（Global House Student Committee：GHSC）」を発足した。GHSCを中心に、宿舎内・学内・地域住民・地元企業を対象とした交流イベントなど、異文化やグローバル化の取り組みを意識した、学生主体の各種活動を実施した。

〈TUTグローバルハウスで実施した夏祭りの様子〉

**○ 英日バイリンガル講義と語学力強化カリキュラムの策定**

構想段階での計画から前倒しして全学展開を進めている英日バイリンガル講義について、引き続き全学展開を進め、学部では231科目（学部の語学を除く全科目の約44%）をバイリンガル化した。また、GAC1年次留学生の受け入れ開始に伴い、日本語力にばらつきのある留学生に対応するため、日本語授業の増加や1年次の前期授業を英語で実施するなど、カリキュラムの改善を行った。

**○ グローバルコミュニケーション能力の向上支援**

学生の語学力向上のため、TOEIC試験で学生の英語力を把握するとともに、英語学習アドバイザーによる相談体制やeラーニング教材の活用などの教育支援体制を継続実施した。また、留学生の日本語学習サポートとして、新たに日本語学習アドバイザーを配置した。
教職員の語学力強化のため、米国における短期集中英語研修を実施したほか、事務職員に対し、eラーニング教材の使用及び英会話研修を実施し、英語力向上を図った。

### ガバナンス改革関連

**○ 第3期中期計画の実施**

大学憲章・大西プラン・国際戦略とSGU構想に基づき作成した第3期中期計画に沿って平成30年度年度計画を実施した。SGUの成果指標と達成目標を含む形で中期計画を設定することで、責任の明確化と実施状況の把握を図っている。

〈大西プラン（2018）〉

**○ グローバル工学教育推進機構の再編**

2013年に設置したグローバル工学教育推進機構について、本学の国際化を更に強力に推し進めるため、既設センターの集合ではなく、国際協力部門（ICCEED）、国際交流部門（CIR）、国際教育部門（CIE）、スーパーグローバル大学（SGU）推進室に再編、全体としての重要事項の実施とリソースの最適化を図り、多文化共生・グローバルキャンパスの創成と大学の国際化に向けた様々な事業の実質化に取り組んでいる。

**○ 国際通用性を見据えた研修制度**

教職員をニューヨーク市立大学クイーンズ校へ約6週間派遣して、短期集中英語強化と研究・事務職務交流を行うFD/SDを引き続き実施した。平成30年度は、教員5名と職員2名を派遣した。
また、海外協定校との人材交流の一環として、マレーシア科学大学及び新モンゴル学園より教職員の受入れを行い、本学教職員との交流を行った。

### 教育改革関連

**○ 教育制度の改革**

英日バイリンガル講義について、講義内容や講義方法の改善を図るため、学生と教員への授業アンケートによる評価を実施し、教務委員会で全学的な推進と定着を推進している。

**○ 学生の国際流動性の向上**

学生の国際流動性を高め、正規生の外国人留学生数の増加を図るため、東フィンランド大学とのダブルディグリー・プログラムを新たに開始するなど、海外協定校との連携教育プログラム（ツイニング・プログラム、ダブルディグリー・プログラム）の実施を推進している。また、既設プログラムの対象学科の拡大等について、引き続き協議を進めている。

## ■ 大学独自の成果指標と達成目標

本構想では，以下の四項目を大学独自の成果指標として設定している。

1）学生宿舎入居率（キャンパスグローバル化指標）
2）海外インターンシップ履修率
3）事務職員の海外研修経験率
4）研究論文等の発表における国際共著率

これらの指標値向上のため，以下の取り組みを行っている。

〈全棟完成したTUTグローバルハウス〉

### ○ TUTグローバルハウス（グローバル学生宿舎）の完成

平成30年度末には、新たに2棟が完成し、計6棟（36ユニット、180名収容）のグローバルハウス宿舎の建設が完了した。平成30年4月にはGAC第2期生が入居し、計115名での活動が始まった。TUTグローバルハウスでは、日本人学生と留学生が共同生活を行い、異文化交流や集団生活における課題共有・解決、各種イベントの企画・実施等を学生が主体的に行っている。

### ○ グローバル実務訓練の実施拡大

学生の海外実務訓練への参加を促すため、平成30年4月に海外実務訓練説明会を、対象学年を含む関心を持つ全学年を対象に実施、その後も継続的なフォローアップを実務訓練委員会を中心に行い、平成30年度は平成29年度の約1.4倍となる72名の学生を派遣した。また、学生の負担軽減のための経済的支援を充実させた。派遣機関を拡充するため、昨年度に引き続き、教員が海外の機関を訪問し、新規開拓を行った。

### ○ 海外交流協定校を中心とした職員の海外研修推進

事務職員のグローバル化推進のため、ニューヨーク市立大学クイーンズ校における短期集中英語強化研修、本学マレーシア教育拠点を活用した国際業務研修を実施している。本取組は今後も継続し、事務職員の海外での実務経験の増加を図ることとしている。

〈国際業務研修の様子〉

### ○ 研究論文等の発表を増加させる取組

研究論文発表数と質の向上のため、論文の「プラス1活動」、論文発表経費支援、ネイティブによる英語論文校正、国際情報発信プラットフォーム「EurekAlert!」を活用した英文プレスリリース等を実施している。また、国際的な活躍が期待できる研究者の育成事業による欧米4大学とのネットワーク構築と若手教員派遣など、国際共同研究を推進する取組を推進している。

## ■ 大学の特性を踏まえた特徴ある取組

### ○ TUTグローバルハウスを中核とした多文化共生キャンパスの創成

シェアハウス型の混住型学生宿舎であるTUTグローバルハウスには、グローバル社会での活躍を志す一般学生も入居し、GAC生のみならず、一般学生も異文化体験を経験できるようにしている。キャンパスでの多様な交流を推進するため、GAC生が大学の国際交流イベントTUT EXPOの運営・参加をしたり、グローバルハウス学生会（GHSC）を中心に、各種の交流イベントを企画・実施、地元企業との交流を行うなどしている。

### ○ ASEAN諸国等との連携を強化

本学の外国人留学生は、マレーシア・インドネシア・モンゴル・ベトナムなどの経済成長著しいASEAN等のアジア諸国からが半数以上を占めている。これらの地域から引き続き優秀な学生を獲得するため、この地域の大学・高校等を訪問して大学紹介とグローバル化戦略・日本留学等の説明会を実施した。また、GACへの優秀な学生獲得に向けて、マレーシアの卓越高校Jit Sin 高校の学生と教員や、モンゴル高専・工科大学からの学生と教員などを本学に招へいし、大学紹介、学内見学、本学学生との交流等を実施した。

〈Jit Sin高校との交流の様子〉

## ■ 平成30年度取り組みの総括

本事業では以下の3つの取組を柱として、真の国際通用性を備えた大学への変革を推進している。

1. 「グローバル技術科学アーキテクト」養成コース（GAC）への学生受入れ
2. 多様な価値観の学生が共生するTUTグローバルハウスにおける宿舎プログラムの実施
3. 重層的な人材循環の強化　～学生・教員・事務職員すべてのグローバル循環を加速・定常化～

GAC受入れの2年目となり、1年次入学1期生が入学するとともに、引き続き3年次編入学生の受入れを行った。GAC生が入居するTUTグローバルハウスでは、グローバルハウス学生会（GHSC）が発足し、更なる学生の自主活動を推進するなど、宿舎プログラムの取組を進めている。

また、事務職員のグローバル化を推進するため、2週間～6週間の国際業務研修・語学研修を実施するとともに、協定校から教職員を受け入れ、交流事業を行うなど、キャンパス全体のグローバル化を進めている。

# 7. 取組内容の進捗状況（令和元年度）

【豊橋技術科学大学】

## ■ 共通の成果指標と達成目標

### 国際化関連

**○ 「グローバル技術科学アーキテクト養成コース（GAC）」への学生受け入れ**

SGU事業の基幹となるGACは開始３年目となり、令和元年度の在籍者は、学部１年次８名、２年次10名、３年次33名、４年次47名、博士前期課程１年次30名の計128名となった。海外初のモンゴル高専卒業生がGAC3年次入試を受験して５名が合格し、令和２年度からの入学が決定した。GAC学生は、一般カリキュラムに加えて語学力とグローバル素養を高める科目を履修するとともに、シェアハウス型宿舎に居住して、グローバルハウス生活・学習プログラムに参加する。学生の様子を見守りながら、随時プログラム内容の評価と改善案の検討を行い、コースの充実を図っている。

**○ 混住型宿舎での生活・学習プログラムの実施**

GACの日本人と留学生が混住するシェアハウス型宿舎「TUTグローバルハウス」で、ハウスマスターと居住GAC学生の代表組織「グローバルハウス学生会（Global House Student Committee：GHSC）」を中心に、グローバル化や異文化理解などを意識したアクティビティ、学内外との交流イベント等の企画・実施を行った。過去3年間の実施結果を振り返り、今後に向けたプログラムの整理と見直しを開始した。

〈他大学とネット会議を交えて行った
ユニット・リーダーミーティングの様子〉

**○ 英日バイリンガル講義と語学力強化カリキュラムの策定**

当初の構想から前倒して全学展開を進めている英日バイリンガル講義を継続して推進し、学部では366科目（語学を除く全科目の約72%）をバイリンガル化した。GAC開始でばらつきが大きくなる日本人の英語力/留学生の日本語力に対応するために、再編した語学カリキュラムの実施と継続的な改善を行っている。

**○ グローバルコミュニケーション能力の向上支援**

学生の語学力向上のため、TOEICの一斉試験で英語力を把握するとともに、英語/日本語学習アドバイザー制度やeラーニング教材提供活用などの支援体制を引き続き実施した。教職員の英語力強化のため、米国大学での短期集中英語研修への４～６週間の派遣を毎年継続して実施している。また、事務職員へのeラーニング機材と通信環境の提供及び英会話研修も引き続き行って、グローバルコミュニケーション能力向上への支援を推進している。

**○ これまでの成果と課題を学外と共有**

本学のこれまでの取り組みの成果と課題を、SGU採択大学を始めとする他大学と地域社会と共有するために、11月８日に、SGUシンポジウムを主催した。①公開パネルディスカッション「豊橋技科大のグローバル化へのチャレンジ」 ②HOUSE会議（大学寮の教育的運営を考える担当者ネットワーク会議）

〈SGUシンポジウムの様子〉

### ガバナンス改革関連

**○ 外部評価委員会の開催**

６月に外部評価委員会を開催し、事業の進捗状況等について説明し、バイリンガル授業、海外実務訓練派遣、シェアハウス型宿舎の運営などに対して助言を得た。

**○ 第3期中期計画の実施**

大学憲章・大西プラン・国際戦略とSGU構想に基づき作成した第３期中期計画に沿って令和元年度年度計画を実施した。SGUの成果指標と達成目標を含む形で中期計画を設定することで、責任の明確化と実施状況の把握を図っている。

**○ 国際通用性を見据えた研修制度**

教職員をニューヨーク市立大学クイーンズ校へ６週間派遣して、短期集中英語強化と研究・事務職務交流を行うFD/SDを引き続き実施し、今年度は教員６名と職員２名を派遣した。また、海外協定校との人材交流の一環として、東フィンランド大学より職員を1ヶ月間受入れて、国際的な業務の理解と事務職員との交流を行った。

〈本学に派遣された東フィンランド大学職員による
事務職員との交流セミナーの様子〉

### 教育改革関連

**○ 教育制度の改革**

英日バイリンガル講義の実施内容や方法の改善を図るため、学生と教員への授業アンケート評価を行い、教務委員会で全学的な評価と定着を推進している。また、GAC専用の大学院新設科目として、外資系グローバル企業と連携して開発した「グローバル・リーダーズ演習」（４日間終日の集中講義）を開始して、学生から高い評価を得た。

**○ 学生の国際流動性の向上**

海外協定校との連携教育プログラム（ツイニングやダブルディグリー・プログラム等）による正規生の外国人留学生数の増加を促進するために、既設プログラムの推進に加え、東フィンランド大学（フィンランド）、ルーヴェン・カトリック大学（ベルギー）、サンテティエンヌ ジャン・モネ大学（フランス）の４大学との国際修士プログラムを新設する取り組み等を推進している。また、留学生の増加に比して日本人学生の海外留学／海外体験が延びないため、大幅に伸ばす施策として、「羽ばたけ！TUT海外研修応援キャンペーン」を、自主財源を投じて実施した。応募113名に対して76名を採択して渡航費相当の支援を行った。（コロナ渦の影響で最終的に渡航できたのは34名。）

## ■ 大学独自の成果指標と達成目標

本構想では，以下の4項目を大学独自の成果指標として設定している。

1）学生宿舎入居率（キャンパスグローバル化指標）
2）海外インターンシップ履修率
3）事務職員の海外研修経験率
4）研究論文等の発表における国際共著率

これらの指標値向上のため，以下の取り組みを行っている。

### ○ TUTグローバルハウス（グローバル学生宿舎）の運営

平成30年度末にシェアハウス型TUTグローバルハウスの全6棟の建設を完了し、今年度は163名のGAC学生及び一般学生が共同生活を行った。TUTグローバルハウスでは、日本人学生と留学生が共同生活を行い、異文化交流や集団生活における課題共有・解決、各種イベントの企画・実施等を学生が主体的に行っている。増加したGAC入居学生への対応と生活・学習プログラムの充実化のために、ハウスマスターに加えて専属のプログラム・コーディネータを雇用した。

〈TUTグローバルハウス 〉

### ○ グローバル実務訓練の派遣学生拡大

海外実務訓練の参加学生を増加すべく、年度始めの4月に、海外実務訓練説明会を対象学年を含む関心を持つ全学年を対象に実施してる。説明会後の継続的なフォローアップを実務訓練委員会を中心に行い、今年度は昨年度よりさらに1割以上の増加となる77名の学生を、海外へ2ヶ月間派遣した。また、学生の負担軽減のための経済的支援を充実させている。

### ○ 海外交流協定校を中心とした職員の海外研修推進

事務職員のグローバル化推進のため、ニューヨーク市立大学クイーンズ校における短期集中英語強化研修、本学マレーシア教育拠点を活用した国際業務研修を実施している。本取組は今後も継続し、海外の実務経験事務職員数の増加を図っている。

〈本学のマレーシア教育拠点で行った国際業務研修の様子〉

### ○ 研究論文等の発表を増加させる取組

研究論文発表数と質の向上のため、研究推進アドミニストレーションセンターを中心として、研究力の分析/戦略立案と、論文発表経費支援、英語論文校正、国際情報発信プラットフォーム「EurekAlert!」を活用した英文プレスリリースなどの研究者支援を行っている。また、国際的な活躍が期待できる研究者の育成事業による欧米4大学とのネットワーク構築と若手教員派遣など、国際共同研究を増やす取組を推進している。

## ■ 大学の特性を踏まえた特徴ある取組

### ○ TUTグローバルハウスを中核とした多文化共生キャンパスの創成

TUTグローバルハウスには、GAC学部生全員が入居するが、それに加えてグローバル社会での活躍を志す一般学生も入居して共同生活体験ができる。更にキャンパス全域の多様な交流を推進するため、GAC学生による大学の国際交流イベントである TUT EXPOの運営や、グローバルハウス学生会（GHSC）を中心とした各種の交流イベントなどを、学内全域から地域や地元企業まで広げて実施するように、指導・支援を行っている。

### ○ ASEAN諸国等との連携を強化

本学の外国人留学生は、マレーシア・インドネシア・モンゴル・ベトナムなどの経済成長著しいASEAN等のアジア諸国からが半数以上を占めている。これらの地域から引き続き優秀な学生を獲得するため、この地域の大学・高校等から戦略的に選定した学校を訪問して、大学紹介とグローバル化戦略・日本留学の説明会などを行ってきた。また、優秀なGAC学生獲得に向けて、マレーシアの卓越高校Jit Sin 高校や、タイのPrincess Chulabhorn Science高校の学生と教員などを本学に招へいし、大学紹介、研究室見学、在学生との交流などを継続的に実施している。

〈本学に招いたマレーシアとタイのトップ高校生とGAC学生とのグローバルハウスでの交流の様子〉

## ■ 令和元年度取り組みの総括

本事業では以下の3つの取組を柱として、真の国際通用性を備えた大学への変革を推進している。

1. 「グローバル技術科学アーキテクト」養成コース（GAC）への学生受入れ
2. 多様な価値観の学生が共生するTUTグローバルハウスにおける生活・学習プログラムの実施
3. 重層的な人材循環の強化　～学生・教員・事務職員すべてのグローバル循環を加速・定常化～

GAC受入れの3年目となり、引き続き、学部1年次生及び3年次編入学生の受入れを行った。GAC生が入居するTUTグローバルハウスでは、グローバルハウス学生会（GHSC）が積極的に活動し、学生の自主活動を推進するなど、生活・学習プログラムの取組を進めている。

また、事務職員のグローバル化を推進するため、2週間～6週間の国際業務研修・語学研修を実施するとともに、協定校から教職員を受け入れ、交流事業を行うなど、キャンパス全体のグローバル化を進めている。

# 8. 取組内容の進捗状況（令和2年度）

【豊橋技術科学大学】

## ■ 共通の成果指標と達成目標

### 国際化関連

**○ 「グローバル技術科学アーキテクト養成コース（GAC）」への学生受け入れ**

SGU事業の基幹となるGACは学年が進行し、学部と大学院博士前期課程の全学年に学生が在籍、令和3年3月にコース第一期修了生（博士前期課程修了）として15名を認定した。令和2年度のGAC在籍者は、学部1年次13名、2年次8名、3年次47名、4年次35名、博士前期課程1年次32名、博士前期課程2年次29名の計164名であった。コロナ禍の影響で年度始めに渡日できなかった留学生もオンライン授業と交流活動を続けながら、11月には全員が渡日した。第2回目のSGU中間評価を終え、外部評価委員の意見も参考にしながら、SGU事業支援期間終了後の自走化に向けたプログラムの評価と今後の実施方針について、学内の関係部署・委員会等での議論を深めていく。

〈GAC第一期修了生「グローバルリーダー賞」授賞式〉

**○ 英日バイリンガル講義と語学力強化カリキュラムの策定**

当初の構想から前倒して全学展開を進めている英日バイリンガル講義を継続して推進し、学部では394科目（語学を除く全科目の約73.6%）をバイリンガル化した。GAC修了要件の一つであるTOEIC730点相当の英語力取得が、第一期修了生の大きな課題であったため、GAC日本人学生を対象としたオンラインTOEIC講座を春休みに開講した。

**○ TUTグローバルハウスでの生活・学習プログラムの実施**

日本人と留学生が混住するシェアハウス型学生宿舎「TUTグローバルハウス」での、グローバル人材育成を支える『GAC生活・学習プログラム』のフレームワークを、過去3年間の実施をベースに令和元年度に整理を行い、それに基づいた実施を開始した。GAC学生に求められる能力のルーブリック、プログラム別の習得能力マトリックス、グローバルハウス入居・生活ガイド、GACプログラムガイド等のドキュメントも整備した。初代ハウスマスターの任期終了に伴い公募を継続して行ったが適任者の採用に至らず、国際課の経験豊富な専門職員2名が主体となりプログラムを運営した。ハウスマスターを高度専門職として処遇することで公募を継続した結果、令和3年4月着任の適任者を採用した。

**○ グローバルコミュニケーション能力の向上支援**

全学生の語学力向上のため、TOEIC IPテストの一斉実施によるスコア把握とともに、英語/日本語学習アドバイザー制度やeラーニング教材提供などの支援を、大学が経費負担し引き続き強力に実施した。

### ガバナンス改革関連

**○ 外部評価委員会の開催**

3月に外部評価委員会を開催し、事業の実施状況と令和2年度の中間評価の結果等について説明した。指標だけによらない実績の見える化や、地域との積極的な交流と支援など、継続的な事業の発展に向けた助言を得た。

**○ 第3期中期計画の実施**

今年度からの新学長と執行部に対して、改めてSGU事業のこれまでの経緯と進捗を共有し、第3期中期計画における令和2年度年度計画に沿って活動を実施した。SGUの成果指標と達成状況、中間評価や外部評価委員会の助言などを元に、SGU事業の自走化と第4期中期計画の策定を視野に、責任部署と方針の明確化などの議論を開始した。

**○ 国際通用性を見据えた研修制度**

コロナ禍のため、学生・教職員の海外への派遣は一切実施出来なかったため、オンライン活用による研修を模索・試行した。教職員の米国大学での短期集中英語研修は中止したが、事務職員へのeラーニング機材と通信環境の提供及び英会話研修は継続するとともに、コミュニケーション力強化の実践的なオンライン研修（会話及びEメールライティング）を実施して、延べ29名の事務職員が受講した。

### 教育改革関連

**○ 教育制度の改革**

英日バイリンガル講義の実施内容や方法の改善を図るため、学生と教員への授業アンケート評価を毎年継続して行い、教務委員会で全学的な評価と定着を推進している。また、開設2年目となるGAC学生向けの大学院科目「グローバル・リーダーズ演習」（4日間終日の集中講義）は、GAC以外への展開や外部講師委託から学内実施への移行の可能性も視野に入れ、SGU推進室員を含む学内の複数の教員が参観する形で実施した。

**○ 学生の国際流動性の向上**

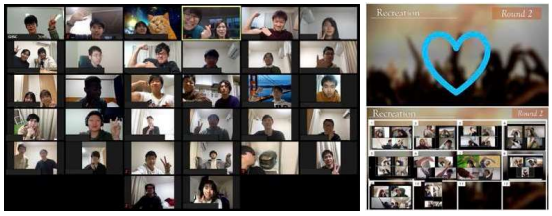
コロナ禍により海外渡航が不可能となったため、海外大学との連携学位取得プログラムや大学院の国際コースはオンラインよる科目履修を最大限活用して実施した。また、昨年より開始した学生の海外研修応援キャンペーン「羽ばたけ！TUT」は、「Go To Study Abroad Online」として継続した。「コロナ禍でも、グローバルへの学びを止めない！憧れる海外への夢を摘み取らない！」を掛け声に、大学が推奨する海外大学等が提供するオンライン研修や、学生が自ら探して参加するグローバル研修の費用を大学が負担し、最終的に12名の学生がこのプログラムを修了した。

## ■ 大学独自の成果指標と達成目標

本構想では，以下の4項目を大学独自の成果指標として設定している。

1）学生宿舎入居率（キャンパスグローバル化指標）
2）海外インターンシップ履修率
3）事務職員の海外研修経験率
4）研究論文等の発表における国際共著率

これらの指標値向上のため，以下の取り組みを行っている。



〈グローバルハウス・オンライン新入生歓迎会〉

### ○ TUTグローバルハウス（グローバル学生宿舎）の運営

平成30年度末にTUTグローバルハウス全6棟の建設を完了し、今年度は157名のGAC学生及び一般学生（日本人101名、留学生56名）が共同生活を行った。GAC学生が中心となって、異文化交流や集団生活における課題解決、イベントの企画・実施等を行うことでリーダーシップやグローバル対応力を身につける教育的宿舎を目指している。本年度はコロナ禍で対面の活動が大きく制約されたため、国際課の専門職員2名が専属のプログラム・コーディネータとして、オンラインによる各種活動の企画と実施を率先して行った。シェアハウス型宿舎であるため、コロナ対策には最大限配慮した結果、感染者を一名も出すことがなかった。

### ○ グローバル実務訓練の派遣学生拡大

今年度は、国内・海外の企業に学生を派遣する実務訓練は全て中止し、学内履修で代替した。そのため、海外実務訓練を修了要件とするGAC学生は、海外派遣を免責とする一方で、グローバル体験を補完する目的で、英語で行うオンライングローバルスキル研修2種類をSGU推進室で企画、3月にGAC学生に提供し、延べ26人が受講した。

### ○ 海外交流協定校を中心とした職員の海外研修推進

ニューヨーク市立大学クイーンズ校における短期集中英語強化研修、及び本学マレーシア教育拠点を活用した国際業務研修は、今年度は実施を見送った。今後のコロナの状況を見ながら、再開時期を検討している。

### ○ 研究論文等の発表を増加させる取組

教員の国際会議や共同研究のための海外渡航は、本年度は全て中止となり、オンラインで継続した。研究活動や論文発表等が停滞することなく継続するように、研究大学強化促進事業の下で、研究推進アドミニストレーションセンターが全学的に支援をしている。

## ■ 大学の特性を踏まえた特徴ある取組

### ○ TUTグローバルハウスを中核とした多文化共生キャンパスの創成

GAC学部生はTUTグローバルハウスに全員が入居するが、加えてグローバル社会での活躍を志す一般学生も入居し共同生活体験ができる環境を提供している。今年度はオンラインでのコミュニケーションと活動が増えざるを得なかったが、密を避けた屋外での活動も状況に応じて企画し取り入れるなど、学生のメンタルや意欲低下を回避しつつ、オンラインの良さを活かす活動を模索して積極的に実施した。

〈コロナ対策を徹底して行った、グローバルハウスの各種活動 〉

### ○ ASEAN諸国等との連携を強化

今年度は、海外の学生や教職員の交流受入れ、海外派遣、各国を訪問した大学紹介や入試説明会・リクルート活動などは一切行えなかった。オンラインで代替したものもあるが、その実施は限定的であった。With/After コロナ時代を見据えて、オンラインも積極活用した、新しい海外との交流や連携体制やプログラムの確立、海外交流協定校との活動の実質化に向けた整理、情報発信強化とグローバル・ビジビリティ向上検討を、執行部体制の下で開始した。

## ■ 令和2年度取り組みの総括

本事業では以下の3つの取組を柱として、真の国際通用性を備えた大学への変革を推進している。

1. 「グローバル技術科学アーキテクト」養成コース（GAC）への学生受入れ
2. 多様な価値観の学生が共生するTUTグローバルハウスにおける生活・学習プログラムの実施
3. 重層的な人材循環の強化　～学生・教員・事務職員すべてのグローバル循環を加速・定常化～

GACプログラムを開始して4年目となり、学部3年次に編入したコース第1期生が博士前期課程を修了し、15名がGAC認定を受けて修了した。GAC学部生が入居するTUTグローバルハウスでは、グローバルハウス学生会（GHSC）を中心に、学生の自主活動を推進、生活・学習プログラムの取組を進めている。

コロナ禍の影響で、海外渡航・渡日がほぼストップし、オンラインによる実施で補完せざるを得ない一年であった。従来型の海外との交流活動に戻ることは無いが、IT技術の進歩で可能となったオンライン活動とデジタルトランスフォーメーションの促進による、新しい時代のグローバル活動と大学の国際化に向けた変革に目を向け、舵を切る必要性を痛感させられる年であった。

# 9. 取組内容の進捗状況（令和3年度）

【豊橋技術科学大学】

## ■ 共通の成果指標と達成目標

### 国際化関連

**○ 「グローバル技術科学アーキテクト養成コース（GAC）」の運営**

SGU事業の基幹となるGACは、学部1年次4名、2年次13名、3年次27名、4年次48名、博士前期課程1年次17名、2年次30名の合計139名が在籍し、博士前期課程を修了した学生のうち、18名をGAC認定した。昨年度はGAC日本人学生の認定要件であるTOEIC730点をクリアできなかった修了生が約半数いたため、今年度より博士前期課程での英語学習サポートを重点的に開始、英語教員と英語学習アドバイザーによるカウンセリングを実施した結果、日本人修了生全員が730点をクリアしGAC認定を手にした。

**○ 英日バイリンガル講義を継続して実施**

当初の構想より前倒して全学展開を進めている英日バイリンガル講義を継続して促進し、学部／大学院合わせ738科目（語学を除く全科目の約70.6%）をバイリンガル化した。

**○ TUTグローバルハウスでの生活・学習プログラムの実施**

TUTグローバルハウスでは、生活・学習プログラムという教育プログラムを居住者に提供している。2020年度から本格的に学習成果の可視化に取り組んでおり、この取組が学寮研究の観点から注目されている。2021年度は日本学生支援機構の大学等における学生支援の取組状況に関する調査に協力し、教育型宿舎の先駆事例としてその報告が同機構ホームページに掲載された。

**○ 学習支援・生活支援**

全学生の語学力向上のため、TOEIC　IPテスト（オンライン）を一斉実施し、学生の英語学習を支援した。また、引き続き英語学習アドバイザー／日本語学習アドバイザーを配置し、学習支援を強力に進めた。
新たに設置された学生支援センターに留学生相談専任教員及び留学生担当のカウンセラーを配置、渡日できずに母国でオンライン授業を受講する留学生の相談にも応じた。また、留学生相談専任教員が留学生に係る国内での就職・リクルーティングに関しても支援する体制を整えるなど、留学生支援体制を強化した。

〈 TUTグローバルハウス 〉

### ガバナンス改革関連

**○ 国際通用性を見据えた研修制度**

FD活動への参加を促す体制等について検証し、大学内の様々な部署で実施している研修について、分野（管理運営、国際連携、英語能力、学生指導等）を整理するとともに、カテゴリーを設定し教職員に分かりやすいFD・SD活動の仕組みを構築した。また、学長が講義をする学長ゼミ（寺嶋塾）を開講し、助教等の若手教員対象の講義、副学長・教授等のシニア教員対象の講義、事務職員を対象とする講義等を実施した。

〈 卒業当日の様子 〉

### 教育改革関連

**○ 交流協定校との連携**

昨年と同様、GAC学生向けの大学院科目「グローバル・リーダーズ演習」（4日間の英語による集中講義）は、コロナ対策として人数を絞って行い、並びにGAC英語プログラムELIオンラインコースをNYクイーンズ校と提携して実施した。さらに交流協定校等と協議を進め、グローバル体験の取組の強化策として、2022年度からは、本学の授業科目の一部を海外の交流協定校等の教員によるオンライン授業とする「国際連携授業」を試行的に開始することとした。

**○ 学生の国際流動性の向上**

ダブルディグリー・プログラムや海外実務訓練の推進、本学独自の海外研修支援プロジェクト「羽ばたけ！TUT海外研修応援キャンペーン」の実施など、海外留学経験学生を増加させる取組を積極的に実施し、2015年度には海外留学経験者割合3.6%であったところ、2019年度には8.2%となった。昨年に引き続きコロナの影響を受けた2021年度は、グローバル体験の方策として、オンラインによる海外留学を実施し、44人の学生が海外のオンライン授業・実務訓練等を経験した。

## ■ 大学独自の成果指標と達成目標

本構想では、以下の4項目を大学独自の成果指標として設定している。

1）学生宿舎入居率（キャンパスグローバル化指標）
2）海外インターンシップ履修率
3）事務職員の海外研修経験率
4）研究論文等の発表における国際共著率

これらの指標値向上のため，以下の取り組みを行っている。

### ○ TUTグローバルハウス（グローバル学生宿舎）の運営

全6棟のTUTグローバルハウスにおいて、今年度は144名の学生（日本人96名、留学生48名）が共同生活を送った。2021年度から新たにハウスマスターを迎え、「TUTグローバルハウスでは、多様性に富んだ「であい」を通じ、居住する全ての学生の学び合い、心身の健康、永続的な友情を追求する」をミッションとして掲げ、活動を促進した。2021年度は、職員主催の生け花体験会などの文化交流会や学生主催の夏祭りなどを実施することで学生同士の学び合いを支援した。

〈 文化交流会（生け花＆着付け） 〉

### ○ コロナ禍でのグローバル実務訓練の実施

昨年度に引き続き、海外への実務訓練学生派遣を見合わせたが、2年前まで学生を受入れてくれたマレーシアの企業に対し、コロナ終息後再度受入れを依頼できるよう、派遣学生の教育効果等の報告会をオンラインで実施した。また、海外の共同研究先と交渉した結果、1.2%（6人／482人）の学生がオンラインにて海外機関との実務訓練を実施した。

### ○ 職員の海外研修推進の取組

昨年度に引き続き、海外研修は断念せざるを得なかったが、オンラインでの研修（会話力強化研修、英文メール作成研修、英会話）を実施、のべ38名が受講した。

### ○ 研究論文等の発表を増加させる取組

研究推進アドミニストレーションセンターでは、投稿予定論文の英文校正支援、論文発表経費支援といった論文生産力を向上させる取組を継続している。
最先端研究に係る論文数（Web of Scienceのarticleとreviewに絞った論文数）は、2020年は281件、2021年は291件と、過去10年の間で比較しても最も高い水準にある。

## ■ 大学の特性を踏まえた特徴ある取組

〈 One Day Camp 〉

### ○ TUTグローバルハウスを中核とした多文化共生キャンパスの創成

TUTグローバルハウスに居住するGACの学生が中心となり、大学内で様々な交流イベントを開催した。4月に行われた新入生歓迎イベント「One Day Camp」では、GAC学生のみならず、一般コースの学生や教職員も参加し、総勢70名が新入生や留学生との交流を楽しんだ。

### ○ 国際研究力の強化

2015年度より、グローバル研究広報TUT-Research（オンライン版、冊子版）を年4回日英両言語で発信している。学内の研究成果をリサーチしEurekAlert!（米国科学振興協会が提供するオンライン情報配信サービス）に日英両言語でのプレスリリースを行うしくみを構築した。2021年度は44本の記事を日英両言語で発信し、2014年12 月のサービス利用当初からの累計で、計238本となった。国内外からの記事へのアクセス総数は、2021年度で440,392である。

## ■ 令和3年度取組の総括

本事業では以下の3つの取組を柱として、真の国際通用性を備えた大学への変革を推進している。

1. 「グローバル技術科学アーキテクト」養成コース（GAC）への学生受入れ
2. 多様な価値観の学生が共生するTUTグローバルハウスにおける生活・学習プログラムの実施
3. 重層的な人材循環の強化　～学生・教員・事務職員すべてのグローバル循環を加速・定常化～

GACプログラムを開始して5年目となり、学部3年次に編入したコース第2期生18名が第1期生（15名）に続き、GAC認定を受けて博士前期課程を修了した。本コースの設置により、学内全体の授業のバイリンガル化の促進等の成果を上げたため、特別なコース（入試区分）としては、発展的に解消することを決定し、公表した。今後のコースのありかたと、終了後の発展的内製化の方策に関し、さらに議論を深めることとしている。